

薬害で知った政治への絶望と希望

当時の福田首相の「全員一律救済」決断から1年半。原告のひとりとして注目を集めた彼女は、闘いの場を移した。薬害に遭ったこともひっそりくめて、自分の人生を生きたいと願う。

文Ⅱ石臥薫子 写真Ⅱ鈴木愛子

「あ、平凡のいい匂いがする」
「ああ、平凡のいい匂いがする」
田衣里子が一瞬、目を細め鼻を膨らませて呟く。

「あなたたちは、感染した人はみんな死ねばいいと思ってるんですか」
と官僚に詰め寄る姿にテレビカメラが群がった。怒濤の裁判が終わって半年後、娘の平凡な幸せを願う両親の元を訪れたのは——小沢一郎だった。

現在、福田の肩書きは民主党長崎県第2区総支部長。民主党が、自民党の久間章生元防衛相を引き摺り下ろすために送り込んだ「刺客」である。農漁業が中心の2区。長崎市内のサラリーマン家庭で育った福田に地縁・血縁はほとんどない。農家の座敷で開かれたミニ集会を覗いてみた。「立候補の決意表明」のテーマは、薬害問題を通じて感じた政治への絶望と希望だが、おじさんたちからは早速「農地は相続が難しいとばってんが」○には、××さんのお陰でふとか（太い）道路ができたことあるけど、あんたんとこは？」ときた。

「まさか」パン職人を夢見た
矢先、C型肝炎感染の告知

「あなたたちは、感染した人はみんな死ねばいいと思ってるんですか」
と官僚に詰め寄る姿にテレビカメラが群がった。怒濤の裁判が終わって半年後、娘の平凡な幸せを願う両親の元を訪れたのは——小沢一郎だった。

「あなたたちは、感染した人はみんな死ねばいいと思ってるんですか」
と官僚に詰め寄る姿にテレビカメラが群がった。怒濤の裁判が終わって半年後、娘の平凡な幸せを願う両親の元を訪れたのは——小沢一郎だった。

現在、福田の肩書きは民主党長崎県第2区総支部長。民主党が、自民党の久間章生元防衛相を引き摺り下ろすために送り込んだ「刺客」である。農漁業が中心の2区。長崎市内のサラリーマン家庭で育った福田に地縁・血縁はほとんどない。農家の座敷で開かれたミニ集会を覗いてみた。「立候補の決意表明」のテーマは、薬害問題を通じて感じた政治への絶望と希望だが、おじさんたちからは早速「農地は相続が難しいとばってんが」○には、××さんのお陰でふとか（太い）道路ができたことあるけど、あんたんとこは？」ときた。

「いい子過ぎることによるストレスでは？」と言われた。そこから厳しめだった育て方を変えた。「言いたいことは何でも言っただら、という風に変えたら、自分の思いを吐き出せるようになった。不思議と体も元気になっていったんです」

「世界には知らないことが一杯ある。同じように自分の中にも気づいていない可能性が詰まっている。自分の力に線引きしちゃういけない」
そんな高揚感を抱いて帰国。フランスパンの美味しさに感動したことから、パン屋でアルバイトを始め、密かにパン職人を夢見始めた時だった。

2001年3月29日朝。何気なく開いた新聞に、母の勝子の目が留まった。汚染された非加熱製剤を使った可能性のある医療機関名のリスト。記事は、1972年から88年に非加熱製剤の投与を受